

① 研究課題名：

急性うっ血性心不全患者の初期治療が予後に及ぼす影響についての検討

② 研究の目的：

急性うっ血性心不全の初期治療は大切で、急性期予後に直結します。利尿薬はその中心となる治療ですが、しばしば利尿薬抵抗性の心不全が存在し、心不全併用薬が必要となります。急性うっ血性心不全の初期治療、特に利尿薬の反応性、心不全併用薬および初期検査データが、その後の予後、および心不全再入院にどのように影響をあたえるかを調査し、因果関係を考察することは重要であると考えられます。本研究は、急性うっ血性心不全の急性期治療と予後の関連を明らかにすることを目的としています。

③ 研究責任医師

名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 循環器内科・心臓カテーテル治療科 矢島 和裕

④ 研究の対象：

西部医療センター循環器内科において、2018年4月1日から2022年3月31日までに急性うっ血性心不全と診断され、に対し診断的検査を行い、入院治療された方。

⑤ 研究の方法：

研究担当医師が、対象となる方の診療録より「⑥調査項目」の情報を調査し、「症例調査票」に記入します。その後、得られた情報を集計し、統計解析を行います。

⑥ 調査項目：

1) 初回診療時：

基本情報：診断時年齢、性別

病歴等：診断名、急性うっ血性心不全診断日、既往歴、服用薬、症状、来院方法、発症から来院までの時間、利尿薬を投与するまでの時間、利尿薬の量、利尿薬投与後の1時間尿量、利尿薬投与後の24時間尿量、心不全併用薬、心不全の原因、転帰、退院時の投薬内容、急性うっ血性心不全再入院の有無（入院有の場合、入院日）

臨床検査：クレアチニン、BUN、アルブミン、ヘモグロビン、血糖値、ナトリウム、CRP、白血球、BNP、左室駆出率、来院時血圧、脈拍、調律、僧帽弁閉鎖不全の程度、NYHA心機能分類、身長、体重

2) 退院後：1年後および5年間の予後、急性うっ血性心不全再入院の有無

⑦ 研究成果の公開

本研究は、学会あるいは学術雑誌にて公表予定です。

⑧ 個人情報の保護

あなたのカルテ番号とは異なる新たな番号を付番し、その番号を用いて症例調査票を作成します。このため、個人情報が外部に漏れることはありません。

この研究に参加されたくない（あなたのデータを使ってほしくない）場合は、医療者にその旨をお伝えください。この研究に用いるデータからあなたの情報を削除いたします。削除のお申し出をされた場合であっても、あなたが不利益を受けることはありません。

⑨ 利益相反

本研究の計画・実施・発表に関して可能性のある利益相反は存在しません。

⑩ 問い合わせ先

研究事務局	診療科	研究責任者
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 住所：〒462-8508 愛知県名古屋市北区平手町1-1-1	循環器内科	矢島 和裕 TEL：052-991-8121（代表）